



「相手の立場に立つ」ことの大切さが語られ、又、誰もが心掛けていることである。しかし、立場を変えないまま「相手の立場に立つ」ことなど本当にできるだろうか。今回、生まれて初めての入院体験をし、色々気付かされることが多くある。その一つに「礼拝の Online 出席」がある。

病院からではあっても、神様を礼拝するのだから、せめて身支度を整えて、椅子に座り、スクリーンを正面に威儀を正すことにし、プログラムの進行に従って、礼拝堂にいるかのように、礼拝を捧げた。初めてだったこともあり、新鮮で、良かった。メッセージもノートが採りやすく、説教者の言わんとするところを受け止められたと思う。初めてで、緊張もあり、入院中で睡眠も十分なので眠気も出なかったせいかもしれない。

いつもスクリーンの向こうからしゃべっている筈の自分がこちらに居て気付かされたことがある。語り手の「目線」がいちどもスクリーンのこちらに届かず、何か「外」にいる自分を感じたことだ。報告で「入院中のベッドの上からの参加」と紹介されていることである。こちらを向いているのとカメラを見ているのとは違う。「カメラ目線」とよく言われるのはこのためかと気付かされた。ことは「Online 出席」だけではない。入院体験を通して、出来る筈のことが出来ず、したくても出来ずに我慢するしかない現実があり、人がいることに気づかされた時でもあった。何もできなくなる「入院」を通しての気づきを感謝した。

### 聖書のことば

「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、宥めのささげ物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。愛する者たち。神がこれほどまでにを愛してくださったのなら、私たちもまた、互いに愛し合うべきです。」(Iヨハネ 4:10、11)